

2025 年度第 1 学期始業式校長挨拶

皆さんおはようございます。

新入生も加わって、2025 年度が始まりました。

今年は桜の開花もここ数年に比べて遅く、ちょうどいま、満開か、そろそろ桜吹雪になっているところです。

桜っていいですね。春の訪れを感じます。そしてこの季節は、新しい 1 年のスタートの時期。ちょうどリセットの時期ですね。皆さんも、それぞれに、去年うまくいかなかったこと、反省すべきことを踏まえて、フレッシュな気持ちで何かをやってみようと、こうしてみようと決意、心定めをしてみてください。

まず、この間の武蔵生の活躍について紹介をいたします。

ちょっと多いので紹介しきれないのですが、高校 3 年生から順次ご紹介します。

まず高校 3 年生。第 19 回科学地理オリンピックにおいて見事銅メダルを獲得しました。これは 1214 名の参加者のうち上位 74 名にあたります。見事です。おめでとうございます。

次に同じく高校 3 年生。歴史民俗学の分野での研究を表彰する第 23 回櫻井徳太郎賞で、見事「佳作」を受賞しました。受賞した研究テーマは「甲武相（こうぶそう）国境地域の中世城郭と築城背景の考察」。研究テーマを変えての 2 年連続の受賞となりました。立派です。おめでとうございます。

続いて高校 2 年生。第 91 回書壇院学生展で見事特選を受賞しました。作品名は少年行です。素晴らしいですね。おめでとうございます。

次にジャグリング部。3 月 1 日（土）に開催された「関東ジャグリング大会」の Middle 部門で、高 1 生が優勝、同じく高 1 生が準優勝しました。この部門はジャグリング歴 1 年から 4 年の部門だそうです。大学生も交えて 15 名の参加者の中での 1, 2 フィニッシュです。見事です。おめでとうございます。

続いて言語学オリンピックの同じく高校 1 年生 4 人。彼らは言語学オリンピック 2025 に参加し、見事銀賞と銅賞を受賞しました。さらに学校賞の銅賞もいただきました。素晴らしいですね。おめでとうございます。

続いて中学校3年生。第35回日本数学オリンピックで参加者5358人のうち上位207名にあたる「Aランク者」として表彰されました。立派です。まだ中学生なのでこれからが楽しみです。おめでとうございます。

続いて朝永振一郎記念第19回科学の芽賞です。3人の方が努力賞として表彰されました。一人目は中3生。研究主題は「揚げ物の科学」2人目は中2生。研究主題は「天然酵母の培養と観察」。3人目は同じく中2生。研究主題は「理論とデータの融合によるゴールキーパーの最適ポジショニング戦略」。素晴らしい。おめでとうございます。

他にも今日は紹介しきれませんでしたが、生物部や数学研究会で積極的に外部での発表を行っています。素晴らしいと思います。おめでとうございます。

さて、いよいよ本題です。新しい年度の始業にあたって、私のほうから少しだけお話をしたいと思います。冒頭お話をしましたが、春というのはリセットをして再スタートをする絶好のチャンスだと思います。何を再スタートするのか、何にチャレンジするのかは人それぞれだと思います。ぜひ皆さん、胸に手をあてて、よし今年はこうしてやろうという決意、心定めをしてほしいと思います。心定め、決心が大事なんだよね、

そうした再スタートをするにあたって、色々な人の話を聞いて刺激を受けることはとても意味があります。

武蔵には多くの卒業生がいますが、2人の先輩が、この3月に母校に帰ってきてくれて特別授業という形で、後輩に話をしてくれました。一人は51期の林肇さん。この前まで英国イギリスの全権大使でした。全権大使ですから、まさに日本の国家代表ですね。高2生徒諸君は全員話を聞いたと思います。もう一人は54期の内海州史さん。ゲーム会社のセガの社長兼COOです。こちらは高1生徒諸君は全員話を聞いたと思います。対称的なお二人のお話でしたが、本当に素晴らしい話でした。もったいないので、今日はお二人の話の概要と武蔵生にあててくれたメッセージを、皆さんにシェアします。新年度のスタートの心定めに役立ててください。

まず林さん。演題は「混迷と分断の世界ー私たちはどう生きるかー」でした。お話は、まず今私たちがどのような世界にいるのかという現状認識について、三つの観点からお話されました。三つの観点、想像できますか。これが的確というか、外交の最前線を歩み続けられた方の言葉にすごく説得力がありました。

まず一つ目は国際情勢の変化という視点。歴史を大きくみると、世界は二度の世界大戦

を経て、資本主義陣営であるアメリカと社会主義陣営であるソ連の冷戦の時代に入った。その後、1980年代から90年代にかけてソ連が崩壊し、冷戦は終結し、アメリカ中心の世界となったけれども、その30年間続いた「冷戦後の世界」が喪失し、「混迷と分断の世界」とも呼ぶべき時代の転換点に到達したという認識です。今話題になっているトランプ関税に示されるように、第二次世界大戦後、アメリカが先頭に立って進めてきた自由主義貿易や世界の民主化の流れが、今、ブロック経済や移民の排斥など時代を大きくあと戻りする変化を見せていることを考えると、この認識もうなずけます。

そして二つ目はヨーロッパでもアメリカでもあるいは日本でも、先進民主主義国と呼ばれる国々の国内で、いずれも政権与党が選挙で大敗するなど、有権者の分断と国内政治の不安定化・流動化という変化が共通して見られるという認識。これもそのとおりです。従来の政治の在り方や世論形成の形が大きく変化してきています。

そして最後に、世界の人口が21世紀末には110億人になることも予想される中で、気候変動、森林減少、海洋汚染、生物多様性の問題などから、人間の文明・活動が地球の限界を超えてしまうことが本当に危惧されているという認識です。

これらの現状を踏まえ、私たちはどう生きていくのか、どう生きていけばよいのかという大きな問いを投げられた講演でした。

そうなんだよね。そういう厳しい時代に君たちは生きていかなければならない。どうするか。そんな問いを投げられても困るよというかもしれないけれど、私は若い皆さんが考える柔軟な思考や直感というものが、結構当たっているような気がします。君たちにかかっているんだね。

その林さん。武蔵生へのメッセージとして、こう書いてくれました。

「世界に羽ばたき、世界で活躍し、人類に貢献する 武蔵生よ出よ」

素晴らしいお話でした。

次に内海さん。演題は「ゲーム業界の進化とその考察」。内海さんは武蔵卒業後浪人して、一橋大学経済学部に入學。大学卒業後、ソニーに入社して、当時は電気メーカーのソニーでしたが、縁あってプレステの開発に携わります。その後、本人「山あり谷あり」と言っていましたが、自分で起こした起業も含め、12の企業を渡り歩いて、今はセガの社長をしています。話の中身はゲームビジネスの歴史を動画も使いながら、わかりやすく説明してくれました。私の武蔵時代は、今のようなゲームはなかったですね。皆さんは知らないだろうけれど、大学時代にテレビゲームと言ってインベーダーゲームが流行ってね。そうしたアーケードと呼ばれるゲー時代から、ファミコン、PC、モバイル、VR・クラウ

ド、さらにメタバース、AIと新技術を積極的に取り入れながら進化し続けているゲーム業界の流れと未来について、わかりやすく語っていただきました。

その話もちろん面白かったけれど、それ以上に彼の武蔵時代の話が面白かったと思います。内海さんは武蔵ではバレー部。私の四つ後輩。私たちの頃からバレー部は高校と中学で一緒に練習をしたり、私も大学入ったときにコーチで指導したりしていたので、昔の内海社長のことはよく知っていました。

内海さんは武蔵時代は、運動は得意だったけれど、勉強はかなり得意でなかったそうです。なぜ勉強ができなかったかというと、やらされて、やる意味がよくわかっていなかったこともあるけれど、多動症で集中できなかった自分の特性を理解していなかった。いつも集中力のない自分、落ち着きのない自分にダメだなと思っていた。

それが変わったのが浪人時代。ある予備校に入学したときだそうです。私も浪人のときにそこに行ったのでわかるのですが、そこは席が四人掛け。しかも成績順。その真ん中の席をあてがわれ、「これはがまんできない。自分は動いてないとだめなんだ」。つまり己を知ったそうです。

それで次は自由に座れる予備校に行って大学に進学したそうです。就職先も、当時はバブルの全盛で大学生の就職は黄金時代。引く手あまただったそうですが、銀行など固い仕事ではなく、ソニーというエンタメ系の会社に。そこで色々と多動しているうちに、つまり動いているうちに、一生懸命になれることを見つけ、色々な出会いがあって、山あり谷あり、今にたどり着いたという話です。

その内海さんもメッセージを書いてくれました。

「多動して自分の居場所を見つけよう」

多動というとネガティブに思うかもしれないけれど、そうでない。集中力がない自分自身を理解し、己は多動と知って、逆にそのことを生かして、多動しているうちに、自分の居場所、自分の輝ける場所が見つかるということです。でもね。これってなかなかできそうできません。多動っていうと、落ち着きがないとか集中力がないとかネガティブにとらえて、自分を責めてしまって前向きになれない。でも、そうした捉え方を邪魔しているのは、ひょっとして「世間体」とか「既存の価値観」なのかもしれないねと内海さんは言っていました。そうだなあと思いました。

冒頭お話したように、新年度はリセットの時期です。そして何かしら「やってやろう」

と心構えを決める時期だと思います。今紹介した二人の先輩の話から、何かヒントがあれば嬉しく思います。

そして予告です。

4月17日の午後の時間を使って、創立記念講演会を行います。

今年の講演者は柳沢正史さん。柳沢先生は、武蔵53期の卒業で、筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構の機構長。毎年秋になるとノーベル賞候補として名前があがる、武蔵の卒業生で、今、最もノーベル賞に近い研究者だと思います。

このたび演題を伝えていただきました。

演題は「睡眠の謎に挑む－健やかな睡眠からはじまるウェルネス－」です。楽しみです。質疑応答も受けていただけるとのことで、興味のある生徒はぜひ柳沢先生の著作を読んだり、動画などを見たりして準備をしておくといいかもしれません。

なお、当日は1時10分、5限のチャイムがなるまでに大講堂に集合してください。席は自由席です。質問したいと考えている人は、前に出やすい席に座っているとよいかもしれません。また柳沢先生、母校での講演ですので、力を入れていただいています。終了時刻は3時30分を見込んでいますので、7限の授業もカットになりますが、よろしくお願いします。

最後に一つ連絡です。昼休みを利用して、校長室で行っている校長面談ですが、コツコツやっているうちに、昨年ついに中1まで終えることができました。そこで本年は新中1の諸君と行います。中1の皆さんとは学校生活にもなれた2学期に行いたいと思います。そして1学期ですが、高3の諸君を再びご招待したいと思います。2年ぶりになるかと思いますが、成長した皆さんと色々お話をしたいと思います。追ってご案内をしますので、どうぞよろしくお願いします。

それでは、何でもよいから、心定め、決心して、よい1年にしてほしいと思います。
ご清聴ありがとうございました。